

計画名：セルロース系繊維を用いた飼料用ラップネットの
利用技術の開発

- 認定事業者：松山毛織(株)(愛知県)
- 共同研究者：KBツツキ(株)、豊橋技術科学大学、広島県畜産技術センター
- 川下事業者：農機具メーカー
- 事業管理機関：(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター(愛知県)
- 主たる技術：機械制御に係る技術)
- 研究開発概要：

セルロース系繊維(木綿)を原料とした飼料用ラップネットとして開発製造。PP(ポリプロピレン)、PE(ポリエチレン)製の従来製品とは異なり、本事業製品は木綿であることから家畜が誤食しても消化可能で安全に使用でき、また外したネットは家畜の糞尿と混ぜて堆肥にできることから、酪農家にとって安全かつ後処理(廃棄物)がゼロになる便利なネットである。

本製品を取り扱うことに積極的な農機具メーカーより指摘を受けたカビ対策等の課題を解決し、事業化を目指す。

【従来技術】

【従来品】

原料：PP(ポリプロピレン)、PE(ポリエチレン)

長所：大量生産可能、低コスト

保管が容易(カビない)

短所：化学製品であることから

- ・産業廃棄物となることから廃棄物処理に費用が発生する
- ・ロールベールから取り外す際に小片が残り、家畜が誤って食べることで、最悪の場合は家畜が死ぬ可能性がある

【新技術】

原料：セルロース系繊維(木綿)

長所：木綿製品であることから

- ・家畜の糞尿と混ぜて飼料になるので、廃棄物がゼロになる
- ・家畜が誤って食べても影響がない

短所：

- ・長期保管が難しい→カビが発生する
- ・ロールから剥がすときに張力不均衡により機械から飛び出す可能性がある

〈技術開発ポイント〉

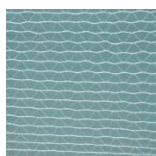
- ・木綿に家畜に無害な防カビ剤の添加
- ・巻取技術の向上による張力不均衡の解消

防カビ剤添加 巻取技術向上

PP
PE



編機



木綿糸



編機

